

【氏名： Aちゃん】 【年齢： 3歳7か月】 【男児・女兒】
 【病名 急性リンパ性白血病】

医学的な状況

医療機関名（主治医／担当医）	A 大学病院（主治医：A 先生）		
受診状況	全ての入院治療が終わり、2～3週に1回、定期的に外来受診をしている。		
治療内容	維持療法として、①メトトレキサート（週1回・朝夕）、②メルカプトプリン（毎日・寝る前）、③バクタ（毎週水木曜に朝夕）の内服をしている。今後15カ月間続く。		
就園／集団生活が可能か（医師の許可）	退院後いつからでも可能		
	配慮の有無		詳細
	有	無	
園で行う服薬や医ケア（医ケアが有る場合は内容を選択し詳細をお書き下さい）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	医ケア：吸引（鼻腔内、口腔内、気管カニューレ内） 経管栄養（経鼻、経口、胃瘻） 導尿、人工肛門、 酸素吸入、血糖測定、インシュリン注射、与薬、その他 ()
体調・症状（早期発見・早期対応方法）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	内服治療（メルカプトプリン）のため、免疫機能が低下しているので、感染予防対策が必要。
緊急時の対応	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	外傷による出血や鼻出血が止まらない時は、救急搬送または主治医への連絡が必要。

発達・生活上の配慮

		配慮の有無		詳細
		有	無	
食 事	哺 乳	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	食 事	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	生ものの摂取が禁止されている（バクタ内服中はずっと）。 皮の薄い果物や生野菜は控える必要がある。水筒はストロー式の物はかびやすいので使用しない。
	排 泄	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	睡 眠	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	

遊 び 行 動	身体機能 (運動機能)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	治療や安静によって体力が低下している。他の子どもと同じように動けないことがあるので配慮が必要。医師の許可があるまで、ジャンプは禁止されている（ステロイド療法による骨粗鬆症の可能性があるため）。
	環境・場所 (室内・園庭・屋外) 散歩	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	プール、泥遊び、砂遊びは禁止されており、医師の指示で徐々に進めている。動物や生き物には、医師の指示があるまで触れてはいけない。埃っぽい場所は避ける（マット運動、工事現場、掃除の場など）
発 達	言葉／表現	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	理解力	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	社会性	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
そ の 他		手洗い石鹸は個人の物を使用する。運動会などのイベントの参加はその都度主治医へ相談する。インフルエンザ、水痘流行時は登園しない。		

保護者情報

保護者の意向・気持ち	早く普通の生活を送らせたいので通園させたいが、通園することによって感染症に罹患するのではないかと心配している。
集団生活への理解	薬の副作用で脱毛があり、他の子どもから何か言われるのではないかと心配している。主治医からは数か月で髪は生えてくると言われている。
家族構成・配慮が必要な家族背景	父 38 歳、母 36 歳、妹 1 歳（保育園）と姉 6 歳（小学 1 年生）の 5 人家族。

園の調整内容

年齢相応のクラスでよいか	年齢相応のクラスで問題ない。
手帳の有無	身体障害者手帳 療育手帳 <input type="checkbox"/> 小児慢性特定疾病
加配の必要性	要 ・ <input type="checkbox"/> 不要 └─ 理 由： 担当者：保育士、看護師、介助員、保護者
設備・機材等	なし
地域連携機関の有無	あり ・ <input type="checkbox"/> なし └─ 連携先：療育・発達支援センター、訪問看護、保健師（行政）
その他	なし

疾患の特徴や集団生活上のポイント

Aちゃんは標準リスク群に分類されるため、再発のリスクは低い。今後1年間ぐらいは内服治療が必要となるため感染しやすい状況が続くが、保育所で感染症が流行していなければ、マスクは着用しなくて良い。生ものの摂取禁止やジャンプの禁止は、定期受診で状況を見ながら徐々に許可されていく。9か月の長期入院生活で体力が低下し疲れやすいため、活動は休憩しながら無理をさせないようにする必要がある。

【氏名： Fちゃん】 【年齢： 4歳 2か月】 【男児・女兒】
 【病名： 1型糖尿病】

医学的な状況

医療機関名（主治医／担当医）	F大学病院 小児科 F先生		
受診状況	毎月1回定期受診		
治療内容	インスリン注射 2回／日（朝食前、夕食後）		
就園／集団生活が可能か（医師の許可）	血糖測定と低血糖に対する対処について配慮が必要。その他生活上の制限はないため、集団生活は可能。		
	配慮の有無		詳細
	有	無	
園で行う服薬や医ケア（医ケアが有る場合は内容を選択し詳細をお書き下さい）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	医ケア：吸引（鼻腔内、口腔内、気管カニューレ内） 経管栄養（経鼻、経口、胃瘻）導尿、人工肛門、 酸素吸入、 血糖測定 、インシュリン注射、与薬、その他 （本人が自分で手指を消毒、穿刺針を使って血液を採取、 血糖測定機器を用いて測定。見守りと値の確認が必要。 ）
体調・症状（早期発見・早期対応方法）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	① 血糖測定の実施：①食前と食後、②低血糖症状（「元気がない」「冷汗がでる」「強い空腹感がある」「手が震える」など）がある時。 ② 低血糖の時にはぶどう糖かお菓子を食べる必要がある（補食）。本人が持参。園にも常備する必要がある。 ③ 血糖値と食事までの時間等で、補食内容と量の指示がある。園での具体的な対応は医師から指示を得ることになっている。
緊急時の対応	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	血糖値が60未満の場合には、補食後30分後に再度血糖測定をして70以上になるまで補食と血糖測定を繰り返す。それでも回復しない場合は、保護者に連絡して、救急車を要請。

発達・生活上の配慮

		配慮の有無		詳 細
		有	無	
食 事	哺 乳	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	食 事	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	食事やおやつは他の園児と同じでよい。 何からの理由で食事を食べられないと低血糖を起こすことがある。 食前・食後の血糖測定。低血糖時には食事やおやつ以外の補食（ぶどう糖やお菓子など）が必要。
排 泄		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
睡 眠		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
遊 び 行 動	身体機能 (運動機能)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	環境・場所 (室内・園庭・ 屋外) 散歩	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	運動や活動の制限は不要。活動量が普段より多くなると低血糖が起こりやすくなるため、活動中や活動後の症状に注意が必要。
発 達	言葉／表現	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	理解力	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	社会性	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
そ の 他				

保護者情報

保護者の意向・気持ち	家の近くの保育園では入園を断られた。小学校に入る前に、同じ年代のお子さんとの集団生活を体験してほしい。近所のお友達が行っているので、本人も楽しみにしている。
集団生活への理解	一生、インスリン注射や血糖測定をしなくては行けないと知った時にはとてもショックだった。でも、そのこと以外には特別なことはないので、みんなと一緒に普通の生活をしてほしい。
家族構成・配慮が必要な家族背景	両親共働き。父方祖父母が近所に住んでおり、面倒をみてくれるので頼っている。

園の調整内容

年齢相応のクラスでよい いか	年齢相応でよい
手帳の有無	身体障害者手帳 療育手帳 小児慢性特定疾病
加配の必要性	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-right: 5px;">要</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不要 <p>理由：血糖測定や低血糖の対応が必要なため、看護師がいる方が望ましい。</p> <p>担当者：保育士、看護師、介助員、保護者</p> </div> </div>
設備・機材等	なし
地域連携機関の有無	<div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 5px;">あり</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ なし <p>▶ 連携先：療育・発達支援センター、訪問看護、保健師（行政）</p> </div> </div>
その他	血糖測定は、安全に落ち着いてできるように配慮が必要。

疾患の特徴や集団生活上のポイント

他の園児と一緒に活動することが可能であるが、血糖値のコントロールのために血糖測定や補食が必要なため、保育士をはじめ周りの理解や協力が欠かせない。今後、病状によってはインスリンポンプによるインスリン注射も考えている。